

五月十日後五時夜

源朝臣奉

総理大臣

陛下、以早朝沛齋奉外務大臣及内務大臣、
臣、今夕ノ儀申ニテ出度下

五月十六午後五時

海軍省知事

佐 藤 大 将

電報存子 驚駭ノ外ナシ 取歸リ 厳重ニ
之 共謀者ナキヤ 厳重ニ 捜索セヨ

五月十九日午後五時後

小田原

伊藤伯

杉方 佐理 大伴

露國皇太子殿下存り午後大津に出立、途中路傍に置り巡査一名白刃ヲ以テ殿下ノ横顔ヲ切付り、犯人ニ其傷ニ於テ續ニ執リ傷ニ於テ寸全傍律ハ確カニテ取敢ヘス物産ニテ以テ療養中ノ報ヲ接セリ右ノ警報ニ因リ北白川官外務内務兩大臣四人ノ医師ヲ隨ヘテ夕京都ニ向テ出発ノ旨 陛下ニモ以テ見舞ノ旨ノ御旨ヲ申出奉リ準備最中ニ取敢ル旨報ニ及リ

台時

謹言

文部大臣

内多事以存也

今日午後一時大津に於て雨宮正皇太子、先統
傷ヲ負ハセタリ不承後、御報知ニ及フ

考
まゑのり

黒田井上西伯ヨリ魯國皇太子殿下附少将アリ
シスハリヤチンスキー宛英使留音各一通即刻傳達
アリタシ

皇使

京都府知事宛

内閣書記官

~~and ^{and} ~~grieved~~~~
 Deeply ^{and} grieved to learn of painful acci-
 dent that has happened on the person of
 His Imperial Highness and anxious to hear of
 His Imperial Highness's condition. Beg to
 express above sentiment in behalf of ^{ministers}
 of state.

① ~~Son Excellence~~ His Excellency Son Excellence
 Le Prince Barintinsky ~~General~~
 Major à la suite de S. M.
 L'Empereur de Russie

Inatugata
 Member President of State.

五月廿三日午後九時三十分

威仁親王殿下

松方伯爵大目

震國皇太子殿下御傷重後、見答御伺
 奉、候下、御心中悲慕之舞

五月十日午後十時

長崎おと事

内務省記官也

本日の露國皇太子は遊難を以て貴官より其
港碇船露艦指揮官、知事トシテノ挨拶アリタルコ
ト、信ス赤ク露國艦隊無難小兵負ノ内ニ右事件
如何様ナル感情ヲ起スヤモ難計故其辺一先分
目注意アリクシ且右事件後水兵ノ操標は揮毫
ノ上日報知方成クシ

十月五日午時五分

魯國皇太子：不敬ヲ加ヘタル

犯罪者連類急速捜査嚴

重ニ処分スヘシ 司法大臣

大坂控訴院檢察長 中村純吉

大津地方裁判所檢察正 山本正巳

十何五分

被告人の魯國虚無党との関係アルカ

否取調へ

司法大臣

大津地方裁判所

檢事山下

五月廿二日

京都府公署 岡田書記官

西條國皇太子は容儀如何多急通電
スレ

五月十二日午二時

京都

齋藤式部官

内侍

中法園皇太子御法應後、見容俸、如何お返
区電ヲ待ッ

甲
卯

五月廿五日午前十一時度

多邸所

徳大寺侍從長

内閣 各大臣

聖上は御睡免御着替アラセラレ喜賀シ
クアツル依々天候伺タラマツル宜ク御執奏
ヲ乞フ

露國白らち子下街

見年トミテ至る

白らち子下街成らうせ

うし女ル方成ルへリ成る

系ス速ニ御伺ノ上返

投アリタシ

カ日千三 杉方ちん

白らち子下街

去方去り改

松方氏居也

五月十日乙酉年十月五日

京都

内務大臣

外務大臣

総理大臣

所ノノ電報二通英外務次官ノ電文受
取リ

五月十三日午後五時度

京都

黒田伯

伊藤伯

松方総理大臣

露國皇太子ハ神戸碇泊ノ軍艦ニ移リ因
所ニテ暫ク御倉生ノコトナルカ又我陛下
ハ神戸ニ滞在ナルカ又ハ神戸ヨリ東京ニ
還御ノコトナルカ返事アレ

五月廿五年後十時春

京都

西御内侍大目

伊藤藤長

里田頼成

松平信理

御地、罷出夕ニ 天皇陛下、御伺、上折

返、返、詳、之、

五月十九日午後十時發

京都

伊藤博文

黒田勲内官

松方信理大臣

郵便電信ノコトハ今朝より非常ノ厄歸リ為
セリ其地ノコトモ憶テ注意怠ラス

五月廿三日午後一時半發

京都

伊藤伯

黒田伯

松方公理大臣

尚^ホ熟考スルニ皇后宮陛下兼皇太子殿下御同
道ニテ西宮國皇太子殿下御下ヲ軍艦ニ御見舞相成ル
様致度ニ就テハ其地ニテ御上奏ノ上天皇陛下ヨリ
御沙汰相成ル様御手續下サレタレ皇后宮陛下ハ
昨朝新橋ヨリ御歸リノ後モ御健全ニ付汽車ノ
御旅行ハ御障リアラセラレ間敷ト思考ス

五月十四日午前七時迄

京都

西御所御大帳

秀本御務大帳

相方俗理大帳

抄中六時、汽車ニテ敷又新橋ニテ別
コリ

立月十四日午前八時五分

京都

黒田隆寛

伊藤清長

栗原由太郎

杉本信正

丹上伯野村子時及森重其地へ行

五月十四日午八時五分

至

伊藤海

松本

返答請在_レ今般ノ處分順_レ序_ニ付_ニ至_レ急
御直談致_シ度_ニ拙官其地_ニ在_レルコト御許_シ
ヲ頼_ム

五月十四日午十二時發

中御内務大臣

松方総理大臣

沖谷重衡外事大臣及齊藤隆夫^{の全名}海軍大臣進退伺呈
出せ凡そ付^りハ速ニ免官ノ決^り計相成^りハ
クト存^存取^取御意見如何ヤ

五月十四日午後一時三十分

西御中格大目

青木外御大目

杉方 昭理大目

平井澄通の書記官澄通の携帶に只今出
發せし露國皇太子隨行者殿敷ノ義ハ貴官ヨ
リ直ニ 天皇陛下上一月上奏ニテ可也 此ノ旨
アリ

五月十四日午後六時三十分

青木如務大伴

松方総理大臣

平井書記官菊花頭飾章一組菊花大
綬章二組封套等

五月十四日午後七時半 参入

トウケウヲイテハコビテハソウ
ノゾミアルヤウヲモアツイテハ
ヘイカヘホンツツノゲンシマ
クツシマケケタルロテイヘイカヨリ
メンウキルシサハチレコソソホニヌ
ハボ

西京

總理大臣

西宮内務大臣

伊藤 敬 四 郎

里田 敬 四 郎

吉本 外務大臣

大 蔵 官

五月廿五日午十二時三十分發

重印

西御中御大目

杉方 総理大臣

大山島名目西御中將、今夕、汽船ニテ佳地、
向テ出度ノ書ナリ

五月十日午十二時三十分夜

西御内務大臣

青木如務大臣

相方 総理大臣

天皇陛下、当分京都、御滞在、御積りナル
中露國皇太子殿下、当分神戸港、御滞在、
ル中又、近、東京、御来遊、御模様ナルヤ

五月廿五日午後一時四十分發

西郷内務大臣

杉方 信理大臣

支島海軍少尉より左ノ通海軍大臣、電報セリ

政府、非常ノ遺憾ノ橋子ナリ候ニ現今ノ橋橋
國能ナラズ

五月十日 露主 伯得 茂

五月十日 午前十時二十分 橋橋

五月十六

新刊

沖守園

内閣書記官

海軍少佐沖守園奉官ヲ免ス内閣
右御通達ニ及リ

五月十日午未ナリ時

滋賀縣知事

松尾正太郎

由岡出立

行政裁断所評定官法廷干秋滋賀縣知事
お事上仕せし處任官ニ等。叙せしレ増俸
五百圓下賜せしレリ。此出立ニ及フ

五月廿二日 白鳥宗子 時辛丑

本所町 内所

多田内閣書記官 田部書記官

松浦書記官 歸京也 付手 河分ノ指
揮アルコト 貴官ノ 於テ 御地 滞在 在 未 未
久也

五月廿六日午前十時五分發

青木如船長

杉方 佐理大

皇太子御帰船後船内景况野本海軍大尉より聴
 取り、伝報告又船内乗員ノ人氣ハ此帰船後ハ平常
 ニ變ハコトナシ船内警備ハ充分ニ兵器ノ用意整頓
 セリ昨日前十時迄本艦ニ坊主以味寄以祈禱
 アリ皇太子は進退ニ付本回ニ御伺ナリシニ皇太子陛下ヨ
 リ通信アリタレハ天皇陛下下よりノ御返信ニ依リテ御
 進退ヲ決スル若ナリ来ハ十九日浦潮斯徳へ向テ直航
 ノ命令アリシ由レ露國公使ニ無名ノ郵便數通到道
 セリ其意味ハ東多地方ニ皇太子ヲ暗殺セシトナルモ
 アリト云ヘリ露國軍艦「シウチ」号近日浦潮斯徳

ヨリ速船ノ若出船前日皇太子ヲ慰メノ爲メ瑞舟
發令ノ儀ニアル由

五月廿六日正午ニ於て

西御由田土行

松方信理土行

幸り松方土行ノ勅令ニハ初メ大山津守大臣ノ
御署名ヲモ存シテ宣シキカ

五月十六日 正午ヨリ時廿五ノ後

電報案(暗号)

徳大寺侍從長宛

大木枢密院議長

昨十五日ヲ以テ本院ノ諮詢ニ附セラレタル

新聞紙雜誌又ハ文書図畫ニ関スル勅令

案原案ノ通可決ス

右上奏ニ及ハレタシ

明治三十四年五月十六日

五月廿三日 西午 茂

京都府所

西御台務大月

松方修理大月

樞密院ノ議ニ付セラレタル勅令案ハ全會一
致ニテ可決セリ直ニ官報ヲ以テ發表シタル
上奏ノ上ニ裁可ノ通知アリタル

和
界
陽

五月十日 午後四時五分

西郷内務大臣

青木知務大臣

松方総理大臣

露國公使館へ投書せし者、以前より臺北ニ出入せし
モノ近頃出入り止ナラレシ懸ナラント不審ノ者アリ
五人ヲ拘引ヒタリ筆跡モ以テルヨシ

五月十七日午前五時發

青森お務大臣

松方総理大臣

露國皇太子殿下ノ東來ニ着セラル、ノ期正ニ近キ
ニアリテ内閣各員親ク敬禮ヲ表スルノ光榮ヲ
得ント希望セシニ殿下ハ俄然浦潮斯徳ニ察艦セラ
ル、ノ報ニ接シ内閣各員皆拜謁、光榮ヲ表シ實ニ遺憾ニ
堪ヘズ茲ニ謹ク殿下ノ海路安全ヲ祈ル、内閣各員ニ
代リ宣ク御稱慶シ之ヲ

五月廿七日午時

青木如格

於方 始 禮 大 行

密回皇太子殿下ノ吉辰ニ際シ余ハ内閣右員
ニ代リ恭ク祝賀ノ意ヲ表シ候ヒテ殿下ノ萬福
ヲ祈望ス所宜ク殿下、御禮奉テ是ク

五月十日壬午未時上野三軒町

西御所御あり

芳本御務大臣

相方結理大臣

過り小官出仕ノ儀は許可ヲ得ス然ルニ露國皇太子
ハ曷早返上京ナラス就テハ其前一應御何方ニ出張
致及シ尚ホ御評議被下御許可相成由候至急
折返シ返信アリクシ

五月廿七日午時五十分

京都府

西御内務省

総務局

今般ノ電報中ノ大臣大將トハ大臣待遇
ノ誤リナラスヤ至急知ラセ

五月廿七午後一時

青森外務大臣

相方 佐理大臣

昨日 参事ノ勅令ヲ實施スルニ付テハ 諸般外交上ニ因スル
ル件ヲ 檢閲スル者ノ 貴官 吏中 特ニ 掛首ヲ 命ジ
日々 内務省ニ 出頭シ 協議 取極 取極 致シ 在 人
名 岡 部 理 官 一 等 急 務 令 下 リ タシ

五月廿七日 陸一時的分發

西卿内務大臣
青木加藤大臣

大藏大臣
山田司法大臣

天皇太子は、以佛國ノ由就る、相方総理大臣
ハ、至急、以慰問ニ出向カレ、可然ト恩考、以奏
上ノ上、至急御返信アリクニ

五月十七日午後一時

西郷内務大臣

松方正義大臣

本日の親任ノ件官報号外ニテ發布ノツモリ
ニ付辭令書ノ寫呈急電報ニテ通知ス

五月十日のちあきつて平下

本庄町方の様

内閣

多田内閣書記長

内閣書記長

平井英助ら書記長

昨日の叙勲者二名ノ姓名勲章等
年金ヲ直グ書面ニテ送ラシタシ

總理大臣ヨリ土方宮内大臣電信案

露國皇太子殿下へ菊花御贈奉り御贈
進ノ儀ハ御見合ノ趣承リ候然レハ御贈進相
成ハモ各同奉王ハハ別ニ差御キハナカルニシ前
年何大和國ゼノワ親王ハ同國皇太子先チ
又若國帝王畫ク贈進奉ル前ニ贈之又智造皇
孫ハインリセ殿下ハ同國皇太子ニコラスカ
ル殿下ニ先チテ同シ急テ奉リテ贈之タリ此ノ例
モアリ且此際ノ事件モアリハ各國ノ奉王ハ事
ト拘ハラス致御奉リテ進ノラシ然レハ且露國
皇太子ハ致御奉リテ威仁親王^{殿下}御贈奉
ノ上御贈進ノカ右奏聞アリタシ

明治二十九年十一月廿一日

大 臣

五月廿八日午後一時十分

京都

西條田村大正

松方信理大正

山田正信大正

津田三善君處分、我御沙汰ノ趣有由候ハ、今般
本末ニ手控ニ所掛リ候、百取控ノ事ナリ

五月十九日午後十時二十分終

黒田伯

伊藤伯

相方伯理人片

榎本子、御儀言、若書面、正之、格手、承知セリ、今
曉ノ、司法大臣ノ、電報、ニ、答、個、以、承、知、相、成、ク、ル
コト、思、考、ス、裁、判、官、ハ、今、夕、ノ、汽、車、ニ、出、發、ノ、苦
ニ、法、定、セ、リ、尚、ホ、諸、事、御、儀、意、ヲ、乞、フ

五日十九日午後
可午分

幸部

内閣

多田幸次官

内閣事務官

内務大臣、御用十ヶレハ帰京スレシ

五月廿五日午後零時五十分

大津地方救急所

三好隆幸宛

南市中西町

本日午後三時、汽車三台、由西日法、雨、大津、
地、少、浪、又

五月廿七年午未九時十五分廿夜

小田 豊

伊 藤 隆 伯

山 島 大 将

松 方 総 理 大 臣

大 清 了 兩 大 臣 ノ 電 報 ニ 行 裁 判 官 ノ 意 思
ニ 任 セ ル 外 ナ シ 今 日 午 後 三 時 公 判 了 閉 ク ト

五月廿七午時十時五十分發

小田貞

伊藤伯

山本伯

相方館理大臣

大津より左ノ電報アリタリ

只今謀殺未遂罪トレテ無期徒刑ノ處

断アリ厚ニ為スヘキノ道ナレ

五月廿七日午後十時午後

大津

西御中村大目

山田口伝書

松本信理書

電信受取速に伝書系に乞フ

(按信日付及受信者存信者トモ不分明)

露艦、内御者舟艦カデイトツ号時夜半長崎、向テ
板橋又今朝水先案内ジスレフセシ、咄レ、依レハ皇
太子殿下御一行ハ東京及内地沖出遊御希望ナレ
凡皇室ヨリ切リ、帰國ヲ申越サレ止ラ得ス御出
祭ノコトニ決定既ニ其水先案内命セラレシ由又
ヤコクワレナイ一般ノ噂ニ依レハ露艦ノ珍事タル
ヤ全ク鞏固ノ不行届ニ因ン士民一般歓迎ノ厚情ハ
満足ナレハ露艦ノ一点ハ周到ナラス且露皇居ニハ
此先如何ナル事アルモ圖ラレス是亦帰國セヨト、由
此ハ神戸郵便電信局長アリ、知ラセナリ